

「あいまいな喪失」

行方不明者家族支援 事例検討会のご案内

家族が行方不明である、故郷の町に戻る事が困難、または戻ったとしても以前の故郷とはまったく異なった状況である、このような喪失を「あいまいな喪失 (Ambiguous Loss)」と呼びます。その支援の第一人者である Pauline Boss 博士に**事前にコンサルテーションを受けた上で、事例検討会をおこないます**。Boss 博士からのコンサルテーションをもとに、あいまいな喪失に苦しむ家族へのアプローチや、その支援に携わる人への支援について、参加者全員で検討します。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日時：**12月18日(日)** 10時~16時 (受付 9時30分開始)

対象：被災者支援を行う専門職・専門家、行政職員
(保健師、看護師、医師、臨床心理士、精神保健福祉士、社会福祉士、行政職員等の専門職)

事前コンサルテーション：Pauline Boss 博士

講師：石井千賀子 (TELL カウンセリング)、黒川雅代子 (龍谷大学短期大学部)、
生島 浩 (福島大学)、瀬藤乃理子 (甲南女子大学)、中島聡美 (福島県立医科大学)

定員：70 名 (申し込み多数の場合は、被災地の方を優先させていただきます)

内容：「事例検討」、「あいまいな喪失理論講義」
「グループ・ディスカッション」

資料代：1000 円

場所：福島大学総合教育研究センター 1 階 特別教室
(福島県福島市金谷川 1 番地)

Pauline Boss 博士 (ミネソタ大学)

ミネソタ大学名誉教授。自身の体験から「あいまいな喪失 (ambiguous loss) 理論」を提唱。行方不明者の家族、認知症患者の家族など、あいまいな喪失に苦しむさまざまな家族の支援経験をもち、9.11 の米国同時多発テロの際にも成果をあげた。著書に『『さよなら』のない別れ 別れのない『さよなら』』学文社、「認知症の人を愛すること：曖昧な喪失と悲しみに立ち向かうために」誠信書房、「あいまいな喪失とトラウマからの回復：家族とコミュニティのレジリエンス」誠信書房など。

事例検討会の詳細および申し込みは、JDGS Project「あいまいな喪失」情報ウェブサイト (<http://al.jdgs.jp/>) をご覧ください。申し込みはHPまたはQRコードから専用フォームでお申込みください。専用フォームにアクセス出来ない場合は、ambiguous_loss@human.ryukoku.ac.jpにてお申込みください。



お問い合わせ先 龍谷大学短期大学部 黒川雅代子 ambiguous_loss@human.ryukoku.ac.jp

主催：JDGS (Japan Disaster Grief Support) Project

共催：日本家族研究・家族療法学会、福島大学生島研究室、福島県立医科大学災害こころの医学講座、みやぎ心のケアセンター、ふくしま心のケアセンター

後援：ふくしま被害者支援センター、NPO法人子どもグリーンサポートステーション、NPO法人仙台グリーンケア研究会